

日時：令和4年6月28日（火）15時00分～16時30分

場所：鎌倉商工会議所3階 301会議室

出席者：佐々木部長（会長）、小日山次長（副会長）、河合（克）校長、河合（幸）校長、坂本教頭、古川教頭、堀江教諭、伏見教諭、事務局（石川課長、池田補佐、花村係長）

1 **開会あいさつ（会長）**

2 **鎌倉市立学校教職員安全衛生協議会委員紹介**

新任の古川教頭、事務局の石川課長が挨拶

3 **報告事項**

(1) 鎌倉市学校職場環境改善プランⅡ進捗状況について

<事務局>

(1) 業務改善に向けた取組 ア「校内業務の見直し」では、校務支援システムでの出退勤管理により、各校の毎月の出退勤や長時間勤務の状況が確実に把握できている。衛生懇談会の実施報告書の中にも、「ノー残業デーの実施」、「会議時間の短縮化・回数の減少」「ICTを活用した情報共有の徹底」などが取組として挙げられており、管理職及び教職員の勤務時間管理の意識が向上したことが伺える。相変わらず「時間外が減らない」「人が足りない」等の記載も見られるが、学校全体の問題としてできることに取り組んでいただきたい。

イ「部活動指導員の導入」については、外部からの部活動指導員の段階的な導入を検討し、教職員の時間的・精神的負担を軽減するとともに、生徒にとって望ましいスポーツ・文化活動の継続を図っていくことが目的だが、鎌倉市部活動検討委員会においても具体的な導入計画に至っていない。

令和4年6月6日、スポーツ庁の有識者会議は2023年度から2025年度末までの3年間をめどに、休日の運動部活動から段階的に地域移行するなど、公立中学校の運動部活動の目指す姿をまとめた提言を室伏広治スポーツ庁長官に提出したこともあり、今後、指針が示されると思う。

ウ「校務支援システムの活用（小学校）」については、小学校での校務支援システムの本格的な運用を開始することにより、情報の共有・文書のデータ化等を進め、業務の効率化を図るものだが、どの程度活用されているか把握していないため、のちほど小学校に問い合わせる。

エ「ICTの導入」については、教育指導課事業により令和3年7月にAIドリル、9月にデジタル教科書を導入、11月にGIGAスクールサポーター運用を開始した。

オ「ICTスキルの向上のための研修の実施」については、子どもたちがICTを安全に使いこなせるように適切な指導を実施するため、教員一人ひとりのICTスキル向上及び効果的な活用を目指し、5月には自己研修のための研修コンテンツの提供を行う「教育センターサイト」の開設及び夏休みを活用した2回の研修会等を実施した。

また、GIGAスクール校内研修会を各校1回ずつ実施するなど、システムの導入と同時に効率的な運用を推進し、子どもたちへ提供する教育の質の向上及び内容の充実を図った。

カ「就学援助の現物給付化」については、就学援助制度（経済的に就学困難な家庭に対し、学用品等の援助を行う）の中で、これまでは学校が保護者から徴収した給食費を本市から保護者の預金口座へ振込む手続きを行っていたが、公会計化に伴い、保護者及び学校の負担が軽減されるもので、その実施のため、「鎌倉市教育委員会就学援助に関する要領」の一部改正を行った。

キ「給食会計の公会計化」については、条例の制定、給食費の管理を行う委託業者の選考、保護者への周知等の準備作業を行い、本年度から実施している。平成29年度、令和2年度に実施した教職員勤務実態調査でも大きな負担として多くの意見が上がっていた業務であり、学校としてはかなりの負担軽減になっていると思われる。もしその効果が上がっていれば、ぜひ給食担当に声を届けて頂きたい。

(2)人的配置による支援の取組 ア「小中一貫教育推進のための会計年度任用職員の配置拡充」及びイ「様々な人的支援の継続・配置」については、計画どおりの配置を行った。そのほか、さらなる拡充として、令和4年度から学級介助員の増員及び児童支援専任教諭の後補充のための会計年度任用職員の配置を行うため、要綱の制定や募集等の準備業務を行った。

(3)プラン推進のための取組 ア「プラン推進体制の整備」及びイ「安全衛生体制の推進」については、5月、10月に開催した安全衛生協議会においてプランⅡの内容確認及び進捗状況報告、各学校における衛生懇談会の課題抽出を実施し、安全衛生通信を発行した。また、学校からの要望に応じる等、学校訪問相談を3回実施した。

ウ「地域・関係機関との協働」では、学校と地域社会の連携を進めるため、地域社会が、学校運営に対して「当事者意識」を分かち合うことで、地域とともに学校運営を行う環境づくりを推進するとともに、外部機関等と協働した取組も進めていくもので、令和3年度は、5月、8月、11月に令和3年度鎌倉版コミュニティ・スクールの実施に向けた検討委員会を開催し、6月、11月、12月に検討委員会ニュースを発行、令和4年度実施校を手広中学校区、第二中学校区とすることを決定した。

エ「事務職員の学校運営への積極的な参画」については、11月に事務部会との意見交換を実施し、事務職会議で鎌倉市立学校事務職員の職務に関する基本要領(案)を提示した。

(4)快適に過ごせる環境整備に向けた取組 ア「学校施設の改築・長寿命化改修等」については、当初の計画通りの改修工事を実施した。

年間を通じて予定通りの実施となるよう、今後とも進捗状況の適切な確認を行っていく。

## <意見交換>

### 校務支援システムの活用

- 小学校では、出席簿や掲示板については、業務改善になっているが、活用までには時間がかかるかもしれない。現場としては、システム導入の経緯や、それによりどのように業務が変わるのか等の情報提供がほしい。  
⇒(市教委)システムの活用については、稲村小、関谷小、以前から取り組んでいる山崎小などが、どのように業務を改善し、どのくらい負担が軽減した、等の情報を、安全衛生通信の中で紹介したり、また、効率化についての取組を各校に照会することなどで少しでも興味を持ってもらいたい。次のステップに進むため、皆様の忌憚のないご意見をいただきたい。
- 大船小も校務支援システムを使うことが決まり、特に混乱もなく進んでいる。
- 小学校は、出席簿と要録を昨年度から始めた。出席簿については、確認する側としても確認しやすい。要録については、こんなに楽に作成できて、確認もしやすいことに先生方も驚いていると思う。
- 中学校で活用した方がいいという点があれば言ってほしい。  
⇒(中学校)効率を考えるならば絶対に使った方がいい。
- 小学校は(電子)掲示板を活用しているのか？  
⇒(小学校)学校による。
- 以前、打ち合わせ内容は黒板に書いていたが、現在、中学校はどこも掲示板を使ってやっており、朝の打ち合わせに出られなくても、掲示板を見れば内容がわかるようにしている。

- 掲示板の活用により、朝の打ち合わせは緊急の用事のための伝達となり、時間は減っている。ただし、職員が掲示板を見る習慣を付けないと、掲示板に載せたのに周知できていないことになる。使用の過渡期なので、習慣とするのには時間がかかる。
- 関谷小では、2年前に連絡を掲示板で行うようにし、打ち合わせは週1日とした。昨年度は朝の打ち合わせをなくし、3学期の終わりには Slack を導入、掲示板とどちらを使い続けるか検討してみた。どちらにもメリットがあるが、iPad からでもスマートフォンからでも対応できる Slack の方が使いやすいかもしれない。
- 大船小ではテレビ(65 インチ)を職員室に置き、画面の3分の1に Slack を写し、残り部分に欠席連絡を表示している。学校全体の欠席状況が一目で把握できるので、全職員が情報共有できるというメリットがある。
- 欠席連絡は Google フォームで行っており、朝の電話が格段に減った。始業前の短時間で電話での欠席連絡は、保護者にとっても負担であり、Google フォームでの連絡は学校、保護者双方にメリットある。絶対に取り入れた方がよい。デメリットは、強いて言えば子どもが保護者に成りすまして欠席連絡を送ってくるのが考えられるが、メリットの方が大きい。
- 小学校では、Google フォームでの欠席連絡を何校で実施しているか？  
⇒(小学校)4~5校だと思う。
- 小学校では、校務支援システムに年間行事予定を入れていないようだが、年度末に予定を打ち込んでおくと、学校日誌に反映できるので、効率化につながっている。出張、来客等の履歴も全職員が確認できる。
- 校務支援システムは、パソコンを立ち上げないと見ることができない。会計年度任用職員・技能員等は、パソコンが一人一台配付されておらず、情報共有は今のところ紙で行っている。  
⇒(市教委)課題として認識し、対応を検討しているところである。
- 教育ネットを活用し、電子データで提出できる文書が増えればよい。現在、学校との連絡は、週3日の通送便に合わせた仕事をしているような状況である。
- 情報提供だが、県への出張申請は、事務職員がオンラインでできるように検討中らしい。  
⇒(市教委)県の教育長会議の中で、県市間の書類提出等をオンラインでできるよう要望している。
- パスワードは定期的に変更するようになっているが、覚えきれなくなって周辺にパスワードを貼ったり、変更規則性のあるパスワードを設定することになる。自分一人が管理できるパスワードを作成しておく(長期間変更しない)方が、セキュリティ効率が高いと思うが、定期的に変更しなくて済むような仕様に変更はできないのか？  
⇒(市教委)教育指導課に確認する。⇒現在の仕様で定期的に変更するようになっているので、今後契約更新時の調整について確認すること。

#### 給食の公会計化

- 導入の年度ということもあり、様々なケースが出てきて戸惑っているところもあるが、学校の教職員にとっては名簿チェック、督促状の作成等がなくなり、圧倒的に事務量が減少している上、督促という精神的負担から解放されたことは大きい。学校が対応することはある程度残っているが、学務課給食担当が、できる限り学校の負担を減らそうと配慮してくれているのはありがたい。

#### 学校校納金の振替

- 学校校納金の預金口座振替手続きを信用金庫が令和5年度から取り扱わなくなるという情報がある。信用金庫を使用している学校が多いため、今後どのように対応するか検討中である。学校校納金を取扱う銀行はいくつかあるが、引き落としまでに時間がかかる等の制約がある。卒業遠足の精算が卒業後にな

るなど、学校運営にも支障が出てしまう。新しく紹介されているシステムは、保護者にとっては、新たに口座を作らず既存の口座の登録が可能であるためメリットとなるが、教員や事務職員の業務負担がかなり増大することとなり、時代に逆行してしまう。

- 小学校では一部を除き、教材費等の学校校納金を現金でやり取りしている。

⇒(市教委)私会計は、解決が難しい。給食の公会計化の際、給食費以外の学校校納金の収納代行についても契約の相手方に問い合わせたことがあるが、手数料を支払えば可能であるとのことだった。他市の状況等も踏まえ、解決策があるようであれば提示する。

## (2) 各学校の職場環境について(衛生懇談会実施内容から検討)

### <事務局>

本年度の衛生懇談会4月分を一覧にまとめた。多くが体調管理や長時間勤務について注意喚起を行う内容であるが、小学校2校で、始業日の変更により、助かった、余裕ができたとの記載があった。始業日の変更については、本協議会で坂本委員からの指摘を受け、対応したことだったので、反響が得られてよかった。

資料7は、令和3年度と4年度を比較した長時間勤務状況のグラフであるが、小学校においては4月の勤務状況の軽減化は歴然としており、80時間以上勤務者が6.1%から0.7%に、45時間以上勤務者が40.1%から22.2%になっている。ちなみに先述の2校では80時間以上が6名から1名、45時間以上が16名から8名に減少し、もう1校は、80時間以上はいないが、45時間以上が14名から7名へと減少した。

中学校においては、80時間以上勤務者が39.2%から30.0%、45時間以上勤務者は73.5%から77.8%に上昇したが、80時間以上勤務者が45時間以上勤務者に移行した結果だと思われる。

ノー残業デーを試行している学校も増加しており、時短意識が浸透していると思われる。

### <意見交換>

- (市教委)長時間勤務の令和3年度と4年度の比較について、中学校はあまり変化がないようだが、小学校がかなり減少している。実感としてはいかがか。

⇒(小学校)令和4年4月は、時間外勤務がかなり減少したことを実感している。本年は、始業式・入学式を4月7日にしていただき、本当にありがたい。昨年度の地獄のような日程からすると、準備に時間をかけることができたと思う。令和5年度以降は、どのようになるか？

⇒(市教委)各学校長からの申請を受け、教育委員会内で日程を調整することとなる。

- (市教委)反対に、4月の中学校の長時間勤務については、令和3年と4年であまり差が見られないことから、始業式の日程だけの問題ではないことが明らかになった。やはり、部活動にメスを入れていかなければ、勤務時間の改善につながらない。部活動指導の地域移行については、令和4年度中には検討が始まるが、学校だけの問題ではなく委託先の問題等もあるので、スポーツ課等、市長部局との調整も必要となる。指導者の選定についても課題ではあるが、ここを改善しないと中学校の長時間勤務は解消しない。

## 4 協議内容

### (1) 鎌倉市学校職場環境改善プランⅡの令和3年度成果と課題について

添付資料5では、令和3年度に実施した事業について、成果と課題について、一覧にまとめた。次回の協議会開催に向け、成果について各学校への照会も行いたいと思っている。委員の皆様は、これらの取組について教職員からの声が挙がっていれば、この場で紹介いただきたい。

### <意見交換>

- (市教委)プランⅡは3か年の計画であり、初年度の令和3年度が終わった。成果が出ている等の学校

があれば、委員の皆様を紹介していただきたい。各学校にも今後照会をかけ、25校で情報共有を行い、働きやすい職場づくりの取組を進めていきたいと思う。

⇒(中学校)中学校は、部活動の改善が課題である。これまで定期試験の最終日から部活動は再開していたが、深沢中では、最終日も部活動を休みとしている。単元別テストに移行し、定期試験がなくなる学校もあり、部活動が中断せずに続くことを懸念している。本校では今後、ノー部活デーに取組むことを検討している。

- 部活に対する思いは人それぞれある。自分の子ども時代を思うと、部活動は楽しかったのですが、時間が減るのはまだしも、なくなるのはいかなものか。

⇒(市教委)衛生懇談会を使って、各学校で方向性や方策を考え、よりよい方向性を見つけてほしいと思う。

- スクール・サポート・スタッフの配置はプリントの印刷、タブレットの管理(NTTとの連絡)等時間がかかる業務や、テストの採点業務補助等に、大変活躍している。配置時間数を増やし、毎日勤務してほしい。

- 児童指導専任後補充非常勤の配置についても、人探しは難しいが、学校運営の方向性としてとてもありがたい。制度の継続と人員の確保について、ぜひお願いしたい。

- 教員不足は深刻である。全県、全国的な問題となっている。本市は年度当初は必要人員を確保できているが、年度途中の代替教員については、難しい状況となっている。

⇒(中学校)クローズアップ現代で深沢中が取材を受け、放映された。学校側としては、教員業務のやりがい・生きがいについて紹介してほしかったが、報道側は、現実的な問題として負の部分の報道することにより、国が動くことを目指すというコンセプトだった。

- 発達に課題を抱えた子どものサポートを行う職員の待遇改善についても、検討が必要である。

- タブレット端末で Google Classroom、クラウド等は、使い方を工夫しながら活用することにより、授業準備の短縮につながっている。

- ネットワーク環境の改善については検討中だと思うが、早急をお願いしたい。

⇒6月議会で補正予算が通ったので、今後改善していく。今しばらく、現状で対応をお願いする。

## (2) 安全衛生通信 No.2 の内容について

### <事務局>

本来であれば昨年度の職員意識調査については、令和4年1月開催予定だった第3回安全衛生協議会で検討する内容だったが、コロナ禍で中止となったため、今回記載した。今年度も同様の意識調査を実施する予定であり、調査の周知にもなると考えている。

裏面には、長時間勤務の体への悪影響や、令和4年7月に廃止となる免許更新制度について記載した。近年、教員不足がメディアでも取り上げられたが、その解消となる期待がある一方で、教壇に立ったことのない教員の配置は、当初は学校がフォロー体制を整える必要があり、現場の負担となる。学校全体で取り組む問題として、取り上げた。

### <意見交換>

- 教職員意識調査と、この通信の発行時期が重なるようであれば、意識調査のQRコードを載せておけば回答率が上がるのではないかと。

⇒そのように対応する。

## 5 閉会

本協議会は年3回、次回は10月、1月頃の開催を予定している。